

授業科目名	安全作業の基本とHSE		開講年度・時期	2022年度 前期
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり			
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他 ()			
授業の内容 (授業科目 の概要)	安全作業の基本について、関連する法令の目的と意義を、日本で起こった災害を調べることによって認識し、「労働安全衛生法」の内容を広く学び、法令遵守並びに安全活動の重要性や必要性及びその基礎の知見を得る。			
年間の授業 計画(授業 の回数やス ケジュール)	1 ガイダンス：建学の理念と安全 2 国内の死亡者数等の統計データ 3 国内で発生する自然災害について 4 国内で発生する人為災害について 5 国内で発生する災害の統計データ 6 不慮の事故と労働災害について 7 労働災害の事故の型の統計データ 8 災害による損失について 9 災害を防ぐために必要な方策・対策 10 災害を防止する意義と法律について	11 法律の目的と意義について 12 法律に違反したら罰則があるのか 13 法令及び規則と指針について 14 法律で定められている義務 15 法律で定められていることを知る 16 安全衛生管理の3管理とは 17 安全の取り組み(リスクアセスメント) 18 法定教育と適応法令を知る 19 法定教育(雇入れ時の教育) 20 前期試験(安全作業の基本とHSE)		
到達目標	次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。 1 国内で発生する災害の統計データから現在の状況を認識する 2 「不慮の事故」と労働災害について統計データから現在の状況を認識する 3 法律の目的と意義と法律に定められている義務について学び、法令遵守の基礎を作る 4 法定教育の雇入れ時の教育について内容を理解する			
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての試験又は提出物(レポート) 2 授業中の取り組み姿勢(意見発表・意見交換等を積極的に行っているか) 3 疑問解消への努力(積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか) 4			
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。			
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会	978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布			

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	安全活動の管理と向上		開講年度・時期	2022年度 後期
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり			
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他 ()			
授業の内容 (授業科目 の概要)	前期で知った安全活動の種類やそれぞれの目的及び意義と取り組み方法について学び、実際の管理手法や安全活動の向上のための取組みの重要性や必要性及びマネジメントシステムの実例を参考に労働安全衛生マネジメントシステム(HSEマネジメントシステム)の基礎の知見を得る。			
年間の授業 計画(授業 の回数やス ケジュール)	1 地熱井掘削における自主保安指針の内容 2 安全衛生管理の体制づくりと安全活動 3 法的な役割と組織と、その安全活動 4 安全衛生委員会の役割と安全活動 5 複数の会社に関係するときの安全管理 6 リスクアセスメント、安全管理と安全活動 7 危険・有害物質の管理と安全活動 8 安全衛生教育の管理と安全活動 9 健康管理の取り組みと安全活動 10 労働安全衛生3管理と安全活動	11 地熱井掘削における自主保安指針の内容 12 労働安全衛生マネジメントシステムについて 13 鉱山保安マネジメントシステムについて 14 両システムと安全活動の違いについて 15 実際に想定して作成してみる、安全活動 16 安全衛生計画を作成してみる、安全活動 17 HSEマネジメントシステムとの違い、安全活動 18 HSEの推進と管理、安全活動 19 HSEとPSMについて、安全管理 20 後期試験(安全活動の管理と向上)		
到達目標	次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。 1 安全衛生管理の組織と安全活動の取り組みの意義と必要性を理解する 2 労働安全衛生マネジメントシステムと安全衛生計画について理解する 3 地熱井掘削における自主保安指針の内容について理解する 4 HSEマネジメントシステムについて理解する			
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての試験又は提出物(レポート) 2 授業中の取り組み姿勢(意見発表・意見交換等を積極的に行っているか) 3 疑問解消への努力(積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか) 4			
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。			
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会	978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布			

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	安全活動の演習		開講年度・時期	2022年度 前期
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり			
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他 ()			
授業の内容 (授業科目 の概要)	安全作業の基本について学び、安全活動の種類とそれぞれの意義とその効果について演習を通じて学び、また法令等に定められた安全活動のキーマンになるよう「職長教育」の演習を行った上で、受講済みの特別教育の災害事例等を通じて、より安全活動の重要性や必要性の理解を深める。			
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	1 雇い入れ時の教育を通じて安全活動の種類とそれぞれの意義を知る 2 不安全状態・不安全行動（ヒューマンエラー） 3 不安全行動（ヒューマンファクター） 4 不安全行動に起因する労働災害について 5 リスクアセスメント（作業手順とKY活動） 6 災害分析手法（4M・4E）について 7 リスクアセスメント型・KY活動について 8 リスクの洗い出し（4つの窓） 9 指差呼称の有効性（チーズモデル） 10 ツールボックス・ミーティング（4S）	11 作業前点検と安全パトロール PDCAサイクルと改善提案 12 能力向上教育の役割（職長教育） 13 動力巻き上げ機械ウィンチの災害事例 14 フルハーネス型墜落制止用器具の災害事例 15 足場の組立解体作業従事者の災害事例 16 低電圧取扱い業務の災害事例 17 酸素欠乏・硫化水素危険作業の災害事例 18 自由研削砥石の取替等の災害事例 19 チェーンソー以外の振動工具取扱の災害事例 20 法令等に定められた安全活動について		
到達目標	次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。 1 法令等に定められた安全活動について、内容を理解し取り組めるように演習を行う 2 特別教育で実施した作業における災害事例を通じて安全活動の演習を行う 3 職長教育演習にて作業計画及び作業配番の組み立てと安全教育の方法を理解する 4			
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての試験又は提出物（レポート） 2 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 3 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか） 4			
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。			
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会	978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布			

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	安全活動の演習（２）		開講年度・時期	2022年度 後期
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり			
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（ ）			
授業の内容 (授業科目 の概要)	安全活動の意義とその効果について、演習にてやり方を覚えながら学び、ボーリング作業または関連する災害事例を活用して安全活動の重要性や必要性を理解し、その進め方を習得する。			
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	1 災害事例研究としてボーリング作業の 模擬現場を想定し、演習を行う 2 作業内容から作業手順を作成する 3 リスクアセスメント型KY活動を行う 4 災害事例研究として4M・4E災害分析 5 リスクアセスメント型の対策の樹立 6 4つの窓・チーズモデルの確認 7 作業前・後の打合わせの確認演習（4S） 8 労働安全衛生マネジメントシステム 9 安全性生計画（作業計画）の立案と作成 10 PDCAサイクルと改善提案の演習	11 安全活動を繰返しボーリング作業の 模擬現場を想定し、演習を行う 12 作業内容から作業手順を作成する 13 作業前・後の打合わせの確認演習（4S） 14 リスクアセスメント型KY活動を行う 15 災害事例研究として4M・4E災害分析 16 4つの窓・チーズモデルの確認 17 リスクアセスメント型の対策の樹立 18 PDCAサイクルと改善提案の演習 19 労働安全衛生マネジメントシステム 20 安全性生計画（作業計画）の立案と作成		
到達目標	次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。 1 ボーリング作業の模擬現場を想定した安全活動の進め方について、演習を行う 2 ボーリング作業の災害事例を通じて、災害の傾向を認識する演習を行う 3 職長を想定した作業計画及び作業配番の組み立てと安全教育の方法を理解する 4			
成績評価の 方法・基準	次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。 1 課題についての試験又は提出物（レポート） 2 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 3 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか） 4			
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。			
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN	
	いちばんやさしい労働安全衛生法	加藤雅章・中央労働災害防止協会	978-4-8059-1771-8	
	講師が作成した説明資料を配布			

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	危険体感訓練演習		開講年度・時期	2022年度 前期																				
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20																				
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり																							
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他 ()																							
授業の内容 (授業科目 の概要)	安全活動の有効性について、実際に危険体感の演習を通じて経験し、危険の感受性を高めるとともに災害事例等によって、危険の察知能力及び危険の回避能力を高める。																							
年間の授業 計画(授業 の回数やス ケジュール)	<table border="0"> <tr> <td>1 アジアクリエイトのDVD資料による安全体感装置による演習に関する説明</td> <td>11 鉱山の施設見学(事例研究)</td> </tr> <tr> <td>2 人を誘導する時の方法(合図の重要性)</td> <td>12 鉱山の施設見学(事例研究)</td> </tr> <tr> <td>3 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)</td> <td>13 危険体感訓練演習(高圧力 水圧)</td> </tr> <tr> <td>4 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)</td> <td>14 危険体感訓練演習(階段歩行・足場)</td> </tr> <tr> <td>5 危険体感訓練演習(滑り・転倒)</td> <td>15 危険体感訓練演習(足場及び梯子)</td> </tr> <tr> <td>6 人を誘導する(歩行演習)周囲の状況</td> <td>16 危険体感訓練演習(漏電遮断)</td> </tr> <tr> <td>7 危険体感訓練演習(カプラー残圧)</td> <td>17 発電所の施設見学(事例研究)</td> </tr> <tr> <td>8 炭鉱の仕事を説明・事例研究(圧気と水圧)</td> <td>18 発電所の施設見学(事例研究)</td> </tr> <tr> <td>9 鉱山の施設見学(事例研究)</td> <td>19 発電所の施設見学(事例研究)</td> </tr> <tr> <td>10 鉱山の施設見学(事例研究)</td> <td>20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成</td> </tr> </table>				1 アジアクリエイトのDVD資料による安全体感装置による演習に関する説明	11 鉱山の施設見学(事例研究)	2 人を誘導する時の方法(合図の重要性)	12 鉱山の施設見学(事例研究)	3 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)	13 危険体感訓練演習(高圧力 水圧)	4 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)	14 危険体感訓練演習(階段歩行・足場)	5 危険体感訓練演習(滑り・転倒)	15 危険体感訓練演習(足場及び梯子)	6 人を誘導する(歩行演習)周囲の状況	16 危険体感訓練演習(漏電遮断)	7 危険体感訓練演習(カプラー残圧)	17 発電所の施設見学(事例研究)	8 炭鉱の仕事を説明・事例研究(圧気と水圧)	18 発電所の施設見学(事例研究)	9 鉱山の施設見学(事例研究)	19 発電所の施設見学(事例研究)	10 鉱山の施設見学(事例研究)	20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成
1 アジアクリエイトのDVD資料による安全体感装置による演習に関する説明	11 鉱山の施設見学(事例研究)																							
2 人を誘導する時の方法(合図の重要性)	12 鉱山の施設見学(事例研究)																							
3 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)	13 危険体感訓練演習(高圧力 水圧)																							
4 危険体感訓練演習(ヘルメット・安全靴)	14 危険体感訓練演習(階段歩行・足場)																							
5 危険体感訓練演習(滑り・転倒)	15 危険体感訓練演習(足場及び梯子)																							
6 人を誘導する(歩行演習)周囲の状況	16 危険体感訓練演習(漏電遮断)																							
7 危険体感訓練演習(カプラー残圧)	17 発電所の施設見学(事例研究)																							
8 炭鉱の仕事を説明・事例研究(圧気と水圧)	18 発電所の施設見学(事例研究)																							
9 鉱山の施設見学(事例研究)	19 発電所の施設見学(事例研究)																							
10 鉱山の施設見学(事例研究)	20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成																							
到達目標	<p>次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 危険体感訓練演習を通じて危険に対する感受性を高める 2 事例研究を通して各所安全に対する取り組みを学ぶ 3 危険体感訓練演習に合わせた災害事例を活用し緊急対応についても学ぶ 4 																							
成績評価の 方法・基準	<p>次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題についての試験又は提出物(レポート) 2 授業中の取り組み姿勢(意見発表・意見交換等を積極的に行っているか) 3 疑問解消への努力(積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか) 4 																							
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。																							
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN																					
	絵で見る労災、災害事例集	アジアクリエイト株式会社																						
	講師が作成した説明資料を配布																							

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。

授業科目名	危険体感訓練演習（２）		開講年度・時期	2022年度 後期																				
担当者名	内田 景己		総単位時間数	20																				
担当教員 実務経験	教科に関係するものとして、坑内掘り炭鉱にて保安技術管理業務に15年、金鉱脈調査鉱山にて保安監督業務を3年間、実務経験あり																							
授業の方法	講義 演習 実験 実習 実技 その他（ ）																							
授業の内容 (授業科目 の概要)	安全活動の有効性について、実際に危険体感の演習を通じて経験し、危険の感受性を高めるとともに災害事例等によって、危険の察知能力及び危険の回避能力を高める。また、この演習を通して、緊急対応についても学ぶ。																							
年間の授業 計画（授業 の回数やス ケジュール）	<table border="0"> <tr> <td>1 安全体感装置による演習に関する説明 危険体感訓練演習（ヘルメット・安全靴）</td> <td>11 VR危険体感訓練演習（窒息）</td> </tr> <tr> <td>2 危険体感訓練演習（滑り・転倒）</td> <td>12 VR危険体感訓練演習（落下物）</td> </tr> <tr> <td>3 危険体感訓練演習（カプラー残圧）</td> <td>13 VR危険体感訓練演習（車両転覆）</td> </tr> <tr> <td>4 危険体感訓練演習（高圧力 水圧）</td> <td>14 VR危険体感訓練演習（挟まれ、巻込まれ）</td> </tr> <tr> <td>5 危険体感訓練演習（階段歩行・足場）</td> <td>15 VR危険体感訓練演習（衝突）</td> </tr> <tr> <td>6 危険体感訓練演習（足場及び梯子）</td> <td>16 VR危険体感訓練演習（転倒）</td> </tr> <tr> <td>7 危険体感訓練演習（漏電遮断）</td> <td>17 災害事例動画による危険体験</td> </tr> <tr> <td>8 VR危険体感訓練演習（墜落）</td> <td>18 災害事例動画による危険体験</td> </tr> <tr> <td>9 VR危険体感訓練演習（火災）</td> <td>19 災害事例動画による危険体験</td> </tr> <tr> <td>10 VR危険体感訓練演習（感電）</td> <td>20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成</td> </tr> </table>				1 安全体感装置による演習に関する説明 危険体感訓練演習（ヘルメット・安全靴）	11 VR危険体感訓練演習（窒息）	2 危険体感訓練演習（滑り・転倒）	12 VR危険体感訓練演習（落下物）	3 危険体感訓練演習（カプラー残圧）	13 VR危険体感訓練演習（車両転覆）	4 危険体感訓練演習（高圧力 水圧）	14 VR危険体感訓練演習（挟まれ、巻込まれ）	5 危険体感訓練演習（階段歩行・足場）	15 VR危険体感訓練演習（衝突）	6 危険体感訓練演習（足場及び梯子）	16 VR危険体感訓練演習（転倒）	7 危険体感訓練演習（漏電遮断）	17 災害事例動画による危険体験	8 VR危険体感訓練演習（墜落）	18 災害事例動画による危険体験	9 VR危険体感訓練演習（火災）	19 災害事例動画による危険体験	10 VR危険体感訓練演習（感電）	20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成
1 安全体感装置による演習に関する説明 危険体感訓練演習（ヘルメット・安全靴）	11 VR危険体感訓練演習（窒息）																							
2 危険体感訓練演習（滑り・転倒）	12 VR危険体感訓練演習（落下物）																							
3 危険体感訓練演習（カプラー残圧）	13 VR危険体感訓練演習（車両転覆）																							
4 危険体感訓練演習（高圧力 水圧）	14 VR危険体感訓練演習（挟まれ、巻込まれ）																							
5 危険体感訓練演習（階段歩行・足場）	15 VR危険体感訓練演習（衝突）																							
6 危険体感訓練演習（足場及び梯子）	16 VR危険体感訓練演習（転倒）																							
7 危険体感訓練演習（漏電遮断）	17 災害事例動画による危険体験																							
8 VR危険体感訓練演習（墜落）	18 災害事例動画による危険体験																							
9 VR危険体感訓練演習（火災）	19 災害事例動画による危険体験																							
10 VR危険体感訓練演習（感電）	20 設定された作業におけるリスクについて リスクアセスメント型・KY活動記録表を作成																							
到達目標	<p>次の項目について理解し、基本的な知識を持つこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 危険体感訓練演習を通じて危険に対する感受性を高める 2 災害事例研究を通して危険の察知能力と回避能力を高める 3 危険体感訓練演習に合わせた災害事例を活用し緊急対応についても学ぶ 4 																							
成績評価の 方法・基準	<p>次の項目を総合的に勘案して評価する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は評価を受けることができない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題についての試験又は提出物（レポート） 2 授業中の取り組み姿勢（意見発表・意見交換等を積極的に行っているか） 3 疑問解消への努力（積極的に質問を行う等、理解する努力を行っているか） 4 																							
受講にあたって の留意事項	講義の目的を考え、自己目標をしっかりと立て、それに向かって積極的な姿勢で学ぶ。講義時間やレポート提出などの約束事は必ず守ること。																							
使用教科書・参考 文献等	書名	著者名・出版社	ISBN																					
	絵で見る労災、災害事例集	アジアクリエイティブ株式会社																						
	講師が作成した説明資料を配布																							

※ 欄内に収まり切れない場合には、項目を明示したA4サイズの別紙を添付してください。